
西園寺蘭子の霊感情話番外編 八木麗華の悪逆非道

神村律子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

西園寺蘭子の霊感情話番外編 八木麗華の悪逆非道

【コード】

N3664N

【作者名】

神村律子

【あらすじ】

ウチは八木麗華。関西ではそれなりに名の通った霊能者や。

ウチは八木麗華。関西ではそれなりに名の知れた霊能者や。

最近は、東京にも事務所を開いて、活動先を開拓しとる。

親友の西園寺蘭子が東京で仕事をしておるんで、あまり関東は荒らしたないねんけどな。

そやから、ウチは東京では副業に力を入れとる。

蘭子には絶対内緒の「取立て屋」や。

今回も、同じサラ金からの依頼や。

また貸付先が支払い渋ってるらしい。

毎度毎度、アホかつちゅうねん。

まあ、そんなアホがおるさかい、ウチの商売が成立するんやから、ええんやけどな。

早速取り立てに向かう。今回はいつもより気合い入っとるねん。

今夜は、蘭子達と合コンや。

蘭子は只働きばかりしてて、稼げてないらしいから、ウチが稼いで助けたるねん。

優しいやろ？ 惚れてまうやろ？

そんな事思っているうちに、取立て先に着いたわ。

またヤクザの事務所やないか。

あのクライアント、少しは学習せいっちゅうねん。

アホ過ぎるわ。

しゃあない、チャツチャとすませて、はよ合コンや。

「毎度、鳥楯ローンでおま」

ウチは陽気にドアを開いた。

「おう、あんたが噂のインチキ霊能者か？」

何や、今日は大人しゅうしと思っただけど、いきなり喧嘩売られたわ。

よう見ると、アホなヤクザの群れに混じって、山伏みたいなカツコしたおっさんがある。

「はあ？ 何の事やら、わかりませんなあ。ウチは、只のサラ金の事務員でんがな」

感情が高ぶってしもつて、東京弁で喋られへん。

「惚けるな。うちの関連会社が、あんたのせいで潰れたんだ。その

落とし前、つけさせてもらっぞぞ」

山伏モドキのオッサンがいるせいで、ヤクザの一人がいきがつとる。

単純やなあ。今から地獄見せたるか？

ウチは例によって巨乳の間からお札を取り出し、悪霊を放出した。

「オンアビラウンケンソワカ！」

すると山伏のおっさんが真言唱えて、悪霊を消してしもった。

「うわははは、どうだ、女！ 手駒を失ったら、お前など只の小娘よ」

おっさんは何や知らんけど、自分が物語の主人公やと勘違いしたらしい。

「ほお、さよか。ほなら、肉弾戦でもええで」

ウチは指をボキボキ鳴らして言った。

相手が何人いたか、数えんかったのだから、五分で終わった。

「申し訳ありませんでした」

素直なヤクザは気持ちさええ。最初から突っ張らんで払っとけば良かったんや。

ホンマ、アホやで。

全員、前歯折れて、目の上腫らしとっておもしろいわ。

特に山伏のおっさんは、ウチに偉そうな事言いよったから、五割増しで可愛かった。

元の顔がわからんほどボコボコや。

「大変申し訳ありませんでした」

おっさんは泣きながら詫びた。

「毎度。今後ともよろしゅうに」

ウチは笑顔全開で礼を言^ゆつて事務所を出た。

さてと。回収金額は結構な額やから、ウチの取り分も多いで。

これなら、蘭子達の分も大丈夫や。

楽しみやなあ、合コン。ムフ。

ほな、またな。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3664n/>

西園寺蘭子の霊感情話番外編 八木麗華の悪逆非道

2010年10月9日12時15分発行